

第54期

# 株主通信

平成26年4月1日～平成27年3月31日まで

 AFC 麻生フォームクリート株式会社

証券コード 1730

## 業績ハイライト

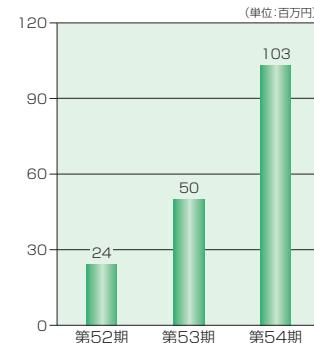
■ 受注高 気泡コンクリート工事 地盤改良工事 其他工事



■ 売上高 気泡コンクリート工事 地盤改良工事 其他工事 商品販売



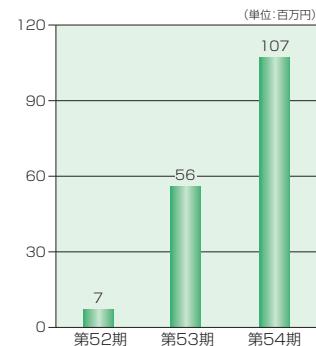
■ 営業利益



■ 経常利益



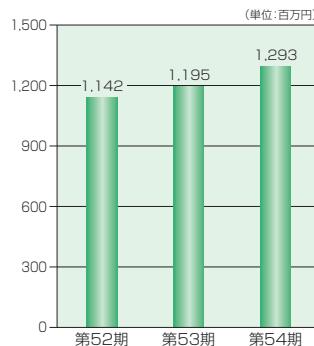
■ 当期純利益



■ 総資産



■ 純資産

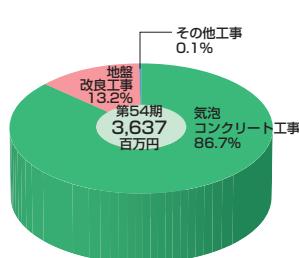


■ 1株当たり純資産



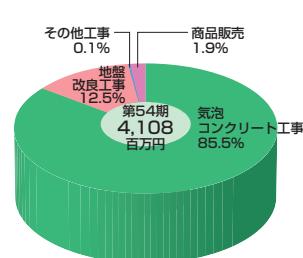
■ 受注高内訳及び構成比

項目	第54期
軽量盛土工事	1,639
管路中詰工事	666
空洞充填工事	848
気泡コンクリート工事計	3,154
地盤改良工事	481
其他工事	2
計	3,637



■ 売上高内訳及び構成比

項目	第54期
軽量盛土工事	1,527
管路中詰工事	1,161
空洞充填工事	825
気泡コンクリート工事計	3,514
地盤改良工事	512
其他工事	2
商品販売	80
計	4,108



## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

第54期事業年度におけるわが国経済は、政府の経済対策及び日銀の金融緩和策により、国内景気は緩やかな回復基調となりましたが、消費税増税前の駆け込み需要の反動減等から個人消費や住宅投資に弱さが見られるなど、景気の足取りは重い状況で推移いたしました。

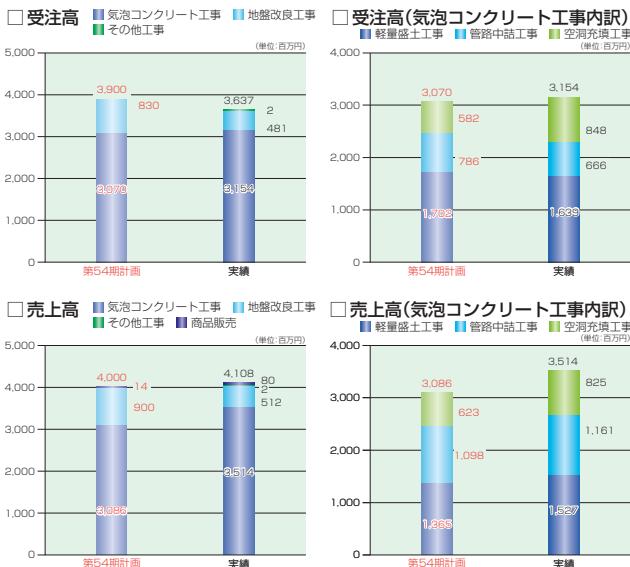
建設業界におきましては、企業の設備投資の持ち直し、公共工事の前倒し発注など、受注環境では追い風が続きました。しかしながら、採算面では資材価格や労務費の上昇が見られ、受注と採算のバランスのかじ取りが難しい状況が続きました。

このような状況の下、当社は営業展開の強化と施工人員の確保に注力しつつ、コスト低減にも取り組み、当該事業年度は当初の利益計画を大幅に上回ることができました。

第55期事業年度は、持続的成長と企業価値向上の歩みを確認なものとするためのステップと位置づけ、業績の更なる向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### ■第54期事業の概況



### ■次期の見通し

第55期事業年度の建設業界におきましては、政府建設投資の減少が予想されているものの、民間建設投資は消費税増税の延期や市場活性化策により堅調に推移するものと見られております。

かかる環境下、当社といたしましては、営業展開の効率化をはかり、受注の獲得に注力するとともに、施工効率の向上に取組み、収益性の改善に努めてまいります。

次期の業績につきましては、主力の気泡コンクリート工事が軽量盛土工事を中心に需要が見込まれ、また地盤改良工事も受注の回復が見込まれることから、受注高4,000百万円(当事業年度比10%増)、売上高4,279百万円(当事業年度比5%増)、営業利益109百万円(当事業年度比6%増)、経常利益116百万円(当事業年度比2%減)、当期純利益87百万円(当事業年度比26%減)を見込んでおります。

(注) 上記の予想は、本株主通信作成時において入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おください。

代表取締役社長  
河村 洋介



## 財務諸表（要約）

## 貸借対照表

(単位：千円)

区 分	第53期 平成26年3月31日現在	第54期 平成27年3月31日現在	増減額 (対前期)
<b>資産の部</b>			
流動資産	1,859,967	2,112,835	252,867
固定資産	1,432,092	1,449,659	17,567
有形固定資産	1,276,075	1,289,723	13,647
無形固定資産	7,617	7,279	△338
投資その他の資産	148,398	152,657	4,259
資産合計	3,292,059	3,562,494	270,435
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,469,338	1,631,816	162,478
固定負債	627,059	637,283	10,223
負債合計	2,096,397	2,269,099	172,701
<b>純資産の部</b>			
株主資本	1,198,946	1,289,011	90,064
資本金	209,200	209,200	-
資本剰余金	180,400	180,400	-
利益剰余金	810,699	900,941	90,241
自己株式	△1,352	△1,529	△177
評価・換算差額等	△3,285	4,384	7,669
純資産合計	1,195,661	1,293,395	97,733
負債・純資産合計	3,292,059	3,562,494	270,435

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位：千円)

区 分	第53期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第54期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	増減額 (対前期)
売上高	3,334,513	4,108,747	774,233
売上原価	2,760,001	3,452,131	692,130
売上総利益	574,512	656,616	82,103
販売費及び一般管理費	524,090	553,556	29,465
営業利益	50,421	103,059	52,638
営業外収益	18,225	26,271	8,046
営業外費用	10,061	11,062	1,000
経常利益	58,585	118,269	59,683
特別利益	237	213	△23
税引前当期純利益	58,822	118,483	59,660
法人税、住民税及び事業税	7,580	11,550	3,970
法人税等調整額	△5,034	△380	4,654
当期純利益	56,277	107,313	51,035

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	第53期 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	第54期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	増減額 (対前期)
営業活動による キャッシュ・フロー	103,053	178,960	75,906
投資活動による キャッシュ・フロー	△23,488	△37,209	△13,721
財務活動による キャッシュ・フロー	79,260	7,902	△71,357
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	158,826	149,653	△9,173
現金及び現金同等物 の期首残高	382,384	541,211	158,826
現金及び現金同等物 の期末残高	541,211	690,865	149,653

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第54期 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額 等合計		
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計						
					別途 積立金	繰越利益 剰余金							
当期首残高	209,200	180,400	180,400	24,050	985,000	△198,350	810,699	△1,352	1,198,946	△3,285	△3,285	1,195,661	
当期変動額													
剰余金の配当						△17,071	△17,071		△17,071			△17,071	
当期純利益						107,313	107,313		107,313			107,313	
自己株式の取得								△177	△177			△177	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)										7,669	7,669	7,669	
当期変動額合計	-	-	-	-	-	90,241	90,241	△177	90,064	7,669	7,669	97,733	
当期末残高	209,200	180,400	180,400	24,050	985,000	△108,108	900,941	△1,529	1,289,011	4,384	4,384	1,293,395	

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 第54期決算のポイント

## ポイント①受注高

気泡コンクリート工事全体の受注高は、前事業年度比11%増となりました。内訳は、前事業年度に比べ管路中詰工事が大型工事の発注の狭間により30%減となりましたが、市場規模が大きい軽量盛土工事が17%増、空洞充填工事も大型案件が順調に受注できたことから77%増となりました。

地盤改良工事におきましては、住宅投資の減少により当社の中心である民間分野の受注環境が悪化し、大型案件の発注がずれ込んだことから、受注高は前事業年度比36%減となりました。

## ポイント②売上高

前事業年度に比べ、売上高構成比率の高い軽量盛土工事の完成工事高が11%増、空洞充填工事の完成工事高が75%増、また管路中詰工事の完成工事高も受注高減にも拘らず繰越工事が多かったことから74%増となり、気泡コンクリート工事全体の売上高は3,514百万円(前事業年度比40%増)となりました。一方、地盤改良工事の完成工事高が受注高の大幅な減少により前事業年度

比33%減となったことで、工事全体の完成工事高は前事業年度比23%増、また、商品販売を加えた全体の売上高も前事業年度比23%増となりました。

## ポイント③完成工事総利益

気泡コンクリート工事では、資材(セメント、混和材、壁面材等)価格などの上昇により、完成工事総利益率が前事業年度に比べ1ポイント悪化し、地盤改良工事の完成工事総利益率も完成工事高の大幅な減少から原価を吸収できず、前事業年度に比べ4ポイント悪化しましたが、工事全体の完成工事高が前事業年度比23%増となったことから、完成工事総利益も前事業年度比15%増に、また商品販売を含めた売上総利益は全事業年度に対し82百万円増となりました。

## ポイント④営業外収益

中国の合併会社からの配当金収入と地盤改良工事の受取技術料が大幅に増加したため、営業外収益が前事業年度に比べ8百万円増加いたしました。

## トピックス

### ● 主な研究開発活動

#### 長距離圧送向け可塑性グラウト材の開発

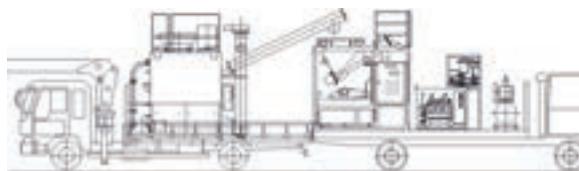
ガス管等のシールドやトンネルの長距離中詰の施工実績を基に、2011年頃から着手してきた当社独自の長距離圧送向け可塑性グラウト材の開発が、長距離圧送（5,000m）試験を含めた最終段階まで来ています。気泡系の可塑状グラウト材では施工が困難な長い距離、且つ湧水の多い水路での補修工事等に適した材料となります。



可塑性グラウト材の試験風景

#### 新規プラントの開発

小・中規模の気泡コンクリート工事向けのプラント（車上）開発に2012年頃から着手してきましたが、ほぼ概要が固まり、2015年度下期から現場での実機テストを含めた使用を実施いたします。今回の新規プラントは、材料供給方法の改善、全自動方式や遠隔操作による方式を採用し、コスト削減、品質向上、効率化等の改善を目指しています。



車上プラントイメージ図

#### 新規特許の出願と取得

気泡コンクリート工事の施工効率向上のため、次世代に向けた圧送ポンプの開発に取り組んでまいりましたが、そのシステムについての特許を出願（2014年8月）いたしました。また、エアモルタル管理装置（システム）を2011年3月に特許出願しておりましたが、2015年4月に特許を取得いたしました。



エアモルタル管理装置

#### 民間市場への新しい事業展開

当社の気泡コンクリート工事の受注に関しては、官公庁発注の比率が高く、公共事業の動向に影響を受ける傾向があるため、民間市場への展開の必要性が出てきております。2014年度から民間企業のプラント施設の老朽化対策として、気泡コンクリート転用による補修の開発に取り組んでおります。



気泡コンクリートを活用し  
金属の腐蝕を防ぎます

老朽化した配管

## ■ 会社概要 (平成27年3月31日現在)

会 社 名	麻生フォームクリート株式会社 ASO FOAM CRETE Co., Ltd.
本 社 所 在 地	神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号
設 立	1961年(昭和36年)6月1日
資 本 金	2億920万円
従 業 員 数	80名
主 な 事 業 内 容	気泡コンクリートの現場施工 地盤改良工事の施工 その他工事の施工及び工事施工用資材 (起泡剤等)の商品の販売

## ■ 役 員 (平成27年6月25日現在)

代表取締役社長	河 村 洋 介
取 締 役	牧 瀬 明
取 締 役	花 岡 浩 一
取 締 役	杉 山 嘉 則
常 勤 監 査 役	阿 部 新 太 郎
監 査 役	沼 田 紳 介
監 査 役	大 瀨 理

## ● 主な工事経歴

注 文 者	工 事 名
JFEエンジニアリング株式会社	日立・久慈川シールドエアモルタル充填工事
清水建設株式会社	東ガス埼東幹線南工区開削
山科建設株式会社	酒田中央ジャンクション本線料金所工事
JFEエンジニアリング株式会社	埼東幹線/大利根ライン北工区中詰工事
大成建設株式会社	川内原子力発電所海水ポンプエリアの防水対策

## ● 事業所・営業所

東 京 事 業 所	神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号
大 阪 事 業 所	大阪府茨木市沢良宜西4丁目15番14号
福 岡 事 業 所	福岡県糟屋郡須恵町大字須恵714番地1
札 幌 営 業 所	北海道札幌市中央区北一条西16丁目1番地27 北海道たばこ会館ビル4F
東 北 営 業 所	宮城県仙台市太白区泉崎1丁目32番20号 プレミア泉崎102号室
東 京 営 業 所	東京都千代田区内幸町1丁目1番7号 NBF日比谷ビル15F

## ■ 株式の状況 (平成27年3月31日現在)

■発行可能株式総数	普通株式	12,080,000株
■発行済株式の総数	普通株式	3,413,806株 (自己株式6,194株を除く)
■一単元の株式の数		1,000株
■株主数		604名 (うち議決権を有する株主数229名)

### ■大株主

株主名	所有株式数(株)	所有株式数の割合(%)
株式会社麻生	1,420,000	41.59
株式会社麻生地所	400,000	11.71
麻生商事株式会社	300,000	8.78
宗教法人萬福寺	240,000	7.03
日本証券金融株式会社	107,000	3.13
麻生フォームクリート従業員持株会	60,400	1.76
株式会社三井住友銀行	60,000	1.75
株式会社福岡銀行	60,000	1.75
株式会社西日本シティ銀行	60,000	1.75
廣告社株式会社	50,000	1.46

(注) 所有株式数の割合は自己株式(6,194株)を控除して計算しております。

## ■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
及び特別口座の 三井住友信託銀行株式会社  
口座管理機関

郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)

### ○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ○未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ○「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。  
確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

## ■ ホームページのご案内

麻生フオームクリートはホームページ上でも各種IR情報を発信しております。ぜひご利用ください。

<http://www.asofoam.co.jp/>



 **麻生フオームクリート株式会社**

神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号

お問い合わせ先 TEL044-422-2061(代表) 管理部